

採用年度	平成 27 年度
お名前	森本 裕也
派遣期間	平成 27 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日
領域/分科/細目	化学／基礎化学／物理化学
派遣国	ドイツ
受入機関名	Max-Planck-Institute of Quantum Optics
受入機関部局名	—
研究概要	物質に光が当たった瞬間、原子レベルでは何が起こっているのか？その答えに迫るべく、固体（特に半導体、絶縁体）中の電子の空間分布が、光に応答して変化する様子を可視化できる手法の開発を行っています。具体的には、電子パルスをレーザーパルスによって時間的に切り取る、あるいは、圧縮する技術を開発し、さらに、それらを時間分解電子回折法と組み合わせることで、オングストロームとアト秒の分解能を兼ね備えたイメージング手法の実現を目指しています。
派遣前の準備についてのアドバイス	派遣開始直後には、派遣先機関との契約、健康保険の契約、賃貸契約、住所登録、銀行口座の開設、携帯電話の契約など、様々な手続きを短期間で行わなければなりません。派遣開始前に、受け入れ研究者に（もし可能であれば秘書の方にも）連絡をして、何を準備すべきかを尋ねておくべきです。その際、海外特別研究員の制度をよく理解して頂くことが重要になります。なぜなら、派遣先との契約に必要な書類や、加入できる健康保険が、給与の出所や滞在期間によって変わるためです。私の場合、派遣先機関との契約で、学士、修士、博士の証明書が必要でしたし、健康保険は、研究所に直接雇用されている研究者よりも安価なものに加入できました。滞在許可（ビザ）に関しては、ドイツでは入国後3か月以内に取得すれば良いため、時間的な余裕はありますが、渡航前には、ドイツ大使館の web サイトで必要な書類を確認の上、準備しておく必要があります。
派遣中に問題になりうることについてのアドバイス	研究でも生活でも、程度の差はあれ、英語でのコミュニケーションによるトラブルを経験することになると思います。遠慮せずに、自分の意見を述べる、理解できないことには、とことん質問する、そして、納得できないことには、きちんと反論することが、トラブルを回避するために重要なポイントだと思います。 生活面においては、同僚や友人の間で、住まいに関するトラブルをしばしば耳にします。ミュンヘンでは、住まいを探すことが極めて困難で、外国人は詐欺にあうケースもあります。住宅事情の良くない地域に赴任される方は、派遣先の方に、住まい探しのお手伝いをお願いすると良いと思います。私の場合、部屋探しから契約までを、研究室の秘書さんが行って下さいました。
派遣先での生活の様子	ミュンヘンは、人々が親切で、非常に暮らしやすい街です。唯一、慣れるのに苦労したのは、コンビニが存在しない上に、商店が平日・土曜日の 20 時以降と日曜・祝日は閉店していることです。研究所のある Garching Forschungszentrum では、更に状況が悪く、平日の夜に食べ物を得ることすら困難です。その一方で、平日の夜や休日は、研究室に人がほとんどいないため、今では、食べ物を準備の上で、静かな環境での研究を楽しんでいます。
海外特別研究員に採用されて良かったこと	取り組みたかった研究課題に挑戦できている、という点に尽きます。派遣先に給与の負担がなく、2年間滞在できることが保証されているので、研究員を募集していなかったグループに受け入れて頂き、課題の遂行に最適な環境で、腰を据えて研究に取り組むことができます。